Streptococcus pyogenesにより中耳炎性内耳炎を来たした1症例

大久保　剛　　立川隆治　　竹野幸夫　　平川勝洋
広島大学病院　耳鼻咽喉科・頭頸部外科

【はじめに】溶血性連鎖球菌（Streptococcus pyogenes）は，ヒトの口腔内や咽頭などに分布する通性嫌気性グラム陽性球菌である．本菌は，連鎖球菌の中で最も病原性が強く，粘膜では咽頭炎，扁桃炎，中耳炎等を起こし，皮膚では種々の化膿性炎症を引き起こすことが知られている．
今回，我々はStreptococcus pyogenesにより生じた中耳炎性内耳炎症例を経験したので，文献的考察を加えて報告する．

【症　　例】46歳　女性

【主　　訴】右難聴　右耳痛　めまい

【現 病 歴】４月３日　感冒様症状　右耳痛（軽度）出現．近医受診　鼓膜に軽度発赤あり，右急性中耳炎を指摘．クラリスロマイシン400 ㎎/dayの処方あり．
４月４日　右耳痛増悪，また，右難聴も出現．他耳鼻科受診　鼓膜の水疱形成を指摘．オフロキサシン点耳薬　追加処方あり．
４月５日　めまい出現．左向き水平・回旋性眼振認め，同日当科紹介となった．

【臨床経過】右中耳炎性内耳炎との診断のもと，スルバクタムアンピシリン大量投与（６g/day），プレドニゾロン漸減投与（100 ㎎/day）を開始した．消炎加療にて，炎症所見，局所所見の改善は認めたが，最終的には右内耳機能の廃絶と至った．

【ま と め】Streptococcus pyogenesにより中耳炎性内耳炎を来たした１症例を報告した．
強力な消炎加療を行うも，内耳機能の廃絶を認めた．
マクロライド耐性Streptococcus pyogenesの報告が増加しており，Streptococcus pyogenesによる急性中耳炎を念頭におく必要があると思われた．